

教材研究ノート№3-A-1

①本時を構想する上でポイントとなる素地

○問題解決のための知識・技能

・九九を正しく覚えている。

○既習とつなぐ見方・考え方

・2年「九九の表をしらべよう」で，6×□＝24や，□×7＝21の□にあてはまる数の見つけ方を学習している。

○共同追究でのゆさぶり

・わり算の答えを計算で求める経験は初めて。

○ゆさぶりに対応する経験

・2年「たし算とひき算のひっ算」のひき算の答えの確かめで，ひく数と答えをたすとひかれる数になることを学習している。

≪学習問題≫

24このいちごを3人に同じ数ずつ分けると，

1人分は何こになりますか。

≪学習問題≫

主眼

授業計画･実施記録

②見通し:1人分を求める式は24÷3となるが，どうやって計算で求めたらよいかわからない。

→１人分の3倍が24になることを使って考えればよい。

１　課題とまとめを一体のものとしてとらえるには

②学習課題:(１人分の数)×3が24ことなることを使って，□×3＝24の□にあてはまる数の見つけ方を考えよう。

③個人追究:九九を使って□にあてはまる数を見つけたり，図をかいて確かめたりする。

④共同追究前半（解法の比較検討）

「8の段と3の段とでは，どちらの方が見つけやすいかな？」

→「暗唱の順にやれば見つかるから3の段がよい。」

④共同追究後半（思考を深める）

「わり算の割られる数とわる数と答えの間には，どんな関係があるだろうか？」

→「わる数と答えをかけると，わられる数になる。」

「2年で習ったひき算とたし算の関係と同じだ。」

⑤まとめ（児童生徒の言葉で）

・わり算の答えは，わる数の段の九九を使ってかけ算で求めることができる。

・わる数と答えをかけると，わられる数になる。

⑥定着･活用問題

24このいちごを4人に同じ数ずつ分けるとき，1人分の個数を求めよう。

(1)どんな式になるかな。

(2)何の段の九九を使って求めればよいかな。

≪定着・活用問題≫

＜本時の展開に当たっての留意点＞

・前時，ブロックを使った操作活動で答えを求めた経験から，操作活動に着目する子どもが多いので，全体でブロックを使って答えを確認した後で，九九を使った解法を学習課題に据えるとよい。

・わり算の計算はかけ算の逆演算であることが理解できたら，反復練習を行い，しっかり定着を図りたい。その際，間違い直しの問題等も取り入れてパターンに変化をつけたい。

【板書計画】